

28 一人一人の学びを見つめる教師の営み



こんな実践

子供一人一人の心の揺れを大切にしながら、登場人物と自分を結び付けたり友達
達の考えを聞いたりし、自分を見つめる姿を価値付けた道徳の実践です。

実践学校 A小学校

実践学年 2学年

実践時期 11月

主題名『よいところ よくないところ』

教材名「ありがとうろうたさん」(出典 新しい道徳 東京書籍)

指導要領との関連 個性の伸長

育成したい資質・能力

- 自分のよさや友達のよさを見つけようとするができる。
- 一つの見方で決めつけず、いろいろな見方で見ようとするができる。
- いろいろな見方をしていこうという意欲を持つ。
- 人によって見方や感じ方が違うことを知る。

○心が揺れる場面をつくり、多面的多角的な見方の大切さを

子供たちの様子を見てみると、一面的な判断で「よくない」や「よい」と判断し、柔軟に対応できないことでトラブルにつながっているケースがあるように思います。私自身も一面的に判断してしまうことがあることを伝え、「よい」「よくない」だけで判断せず、多面的多角的に考えることの大切さを、自分自身の心が揺れることによって実感を持って考えたいと思いこの授業を計画しました。



授業の流れ

中心発問 りょうたさんの「なにをすることもゆっくりなところ」
 ゆきおさんの「元気がよくじっとしていないところ」は
 よいところなのか 良くないところなのか

○それぞれの段階ごとに、「よいところ」か「良くないところ」のどちらだと思
 うか聞き、黒板の表にシールを貼っていく。理由を話せる人は話す。

- ① 細かい情報がない（中心発問のみ）段階
- ② りょうたさん（－） ・学校を遅れそうになる ・「早くして」と言われる
 ・ドッジボールが苦手
 ゆきおさん（＋） ・大きな声で自分からあいさつ ・スポーツがとくい
 ・ドッジボールでまもってくれる
- ③ りょうたさん（＋） ・忘れ物をしたことがない ・ていねいにしらべる
 ゆきおさん（－） ・机のロッカーがごちゃごちゃ ・ボタンが見つからない
- ④ みんなで話し合った後



ここがポイント！

- ・自分の心の動きを意識しながら考えを深めていくために、心の動きが
 見えるように、4段階に分けてシールを貼るなどの工夫が大切です。
- ・1時間を通して主体的に考えるために、あえて、＋の情報－の情報を
 分けて提示するなど、心が揺れる場面をつくるのが大切です。

○一人一人の心の揺れ

授業を通して、それぞれに自分と重ね合わせながら、迷い考える姿が見られました。
 道徳の評価はおおくりの中で行っていきとされていますが、この1時間の授業の中での
 の一人一人の心の揺れを見つめてみました。

以下 話したこと「 」 学習プリントに書いたこと【 】 補足（ ）で示します。

○自分の経験と結び付けながら考え、友達の意見を聞き、自分を見つめるAさん

Aさんは、自分の良くないところに目を向け、知っているお話や校長講話の内容と結
 び付けながら、考える姿が見られました。

導入「(私が) 良くないところはなおしたいけど、くせになっちゃってるからなお
 せない。」

- ① 「これって、この間のヒッポくんとチッタちゃんのお話みたい。」

②「りょうたさんもいいところもあると思う。」

③「え～。まよう。」

「さっきからころころ変わっちゃう。」

④「よいところはそのまま、
よくないところはかわってほしい。」

T 「そんなことできる？」

Aさん「むり。」

ゆきおさん		
	よい	よくな い
①		○
②	○	○
③		

りょうたさん		
	よい	よくな い
①	○	
②		○
③		

T 「さっきBさんは、りょうたさんとゆきおさんがなかよしだって言ってたね。」

Aさん「今日、校長先生が、同じじゃなくてもなかよくなれるって言ってた。」

Bさん「りょうたさんがていねいにさがしていたのは、ゆきおさんのお手本になる。」

Cさん「(りょうたさんとゆきおさんが) いっしょによくなっていく。」

ふりかえり【かわってほしいところもあるけど、くせになるからやめられなくなるけど、でもわたしはぜったいにやめられるよと思いました。りょうたさんもゆきおさんもわたしもやめられそうに思いました。】

授業のはじめに、「よくないところはなoshitaiけど、くせになっちゃうからな
おせない。」と正直に自分のことを語っていたAさん。自分の読んだお気に入りの本の
登場人物と重ね合わせることで、お話の中にもずっと入っていくことができました。
ころころ変わってしまう自分を意識し、シールを貼る場面になるたびに、立ち止まっ
て自分の思いと向き合う姿が見られました。そして、友達の意見を聞く中で、人には
変わってほしいと要求したいけれど、それは難しいことだと自分のことと重ね合わせ
て考えるようになりました。さらに、校長先生の話とつなげて考えることで、同じじ
ゃない友達と一緒によくなっていくことへの希望を感じて授業を終えました。

○題材の対立する事柄や友達の意見から、自分とは違うよさを受け入れていくDさん

Dさんは、はじめの場面で、自分では意識していませんが、自分と重ね合わせるこ
とができるかどうかで「よい」「よくない」と判断していました。知らず知らず、自分と似
ている面のあるゆきおさんに肩入れしながら、考えることに没頭していました。

①「りょうたさんはよくない。」

ゆきおさんはよい。」

②「やっぱり！おれだけ合ってた。」

ゆきおさんはよいて。

りょうたさんはおそくなっちゃう。

ゆきおさんは人のことをまもって

くれるからやさしい。」

ゆきおさん		
	よい	よくな い
①	○	
②	○	
③	○	

りょうたさん		
	よい	よくな い
①		○
②		○
③	○	

③【りょうたさんはとてもともだちを大事にしているからよい。ゆきおさんはどっちも。】

Bさん「りょうたさんがていねいにさがしていたのは、ゆきおさんのお手本になる。」

Dさん「ドッジボールとくいなのは、りょうたさんのお手本になる。」

④「ええっ、みんな真ん中に貼るの？おれこっち。」

ふりかえり【二人ともいいところとかいろいろある。Bくんは、二人ともどんどん自分たちの思いが（おたがいに）とどいてるってそう思っているのかもって思いました。】

一面だけで判断することに、ためらいのなかったDさんが、いろいろあってそれぞれにいいところがあると、自分の考えを抵抗なく変えていきました。授業の終わりには、友達の発言の意味を考える姿も見られ、見えていることだけではなく、相手がどう思っているかを考え、断定しない言い方をしていました。

○迷うことで、「よいところがあるからよい」とよさに目を向けることから、「よくないところもあってよい」と、より肯定的に受けとめるようになったEさん

Eさんは、はじめから、「よくない」に貼ることはしませんでした。ゆっくりていねいに字を書いている自分と結び付け、りょうたさんにも言われていないけれどいいところもあるのではないかと予想をしながら考えていました。

②「ゆきおさんはりょうたさんのことをまもってくれるしやさしいからよい。

りょうたさんは「早くして」と言われるけど、ゆっくりでも書写とかきれいに書けると思う。」

③【りょうたさんはロッカーはごちゃごちゃだけど、人のことは大切にしているからどっちも。ゆきおさんは「早くして」と言われたりもするけど、ゆきおさんのボタンをさがしてくれるから、りょうたさんも人のことを大切にしてくれるからどっちも。】

ふりかえり「二人ともいいところもあつたり、よくないところもあるから、それでも、どっちももっててもいいんじゃないかなーと思いました。」

		ゆきおさん		りょうたさん	
		よい	よくない	よい	よくない
			○		
①				○	
②			○		○
③			○		○

考える中で、「人のことを大切にしているかどうか」という自分が判断する基準を見つけ、よいところがあれば、よくないところがあってもいいとより肯定的に考えるようになりました。

○自分と結び付け自分のこれからを考えたFさん

Fさんは、はじめは自分が普段気になる友達の行動を基準に判断していました。次にりょうたさんの学校に遅れそうになる姿が、自分の普段の姿と重なったことで、考えが変わり、切実感を持って考える姿が見られました。

導入 「よいところはそのまま続けたい よくないところはなおしたい。」

① 「りょうたさんはろうかとか走らないからよい。ゆきおさんはいすにすわってられないからよくない。」

② 【(りょうたさん) そういう時もあるからしかたない。】
【ゆきおさんはやさしいし運動が大好きだからよい。】

ゆきおさん		
	よい	よくない
①		○
②	○	
③		○

りょうたさん		
	よい	よくない
①	○	
②		○
③	○	○

③ 【りょうたさんは何をするにもゆっくりだけど、わすれものをしたことがないからすごいもあるけどわるいもある。それにボタンを見つけた。ゆきおさんはロッカーも机もごちゃごちゃだけど、しょうがないけど、なおした方がよい。よいところもあるけど、わるいところもある。】

④ 【ボタン りょうたさんが見つけた。ありがたい。】
【ぼくももう ありがたい。うれしい。(ゆきおさんが守ってくれて) りょうたさん ぼくもまもりたいなーうまくなりたいたいなー。】

ふりかえり【まよったけど、しょうがない なおして そのまま がよいと思いました。友達の意見を聞いたらなっとくした。りょうたさんは、よいところもあるし、よくないところもあるけど、なおせないのもある。わたしはりょうたさんと同じで、おかあさんに「学校おくれるよ」と言われるから計画を立てた。ゆきおさんと同じであわてんぼうだから、なおしてゆっくりのところをふやしたい。】

よくないところは直さなければいけないと頑なに思っていたFさん。自分と重ね合わせることで、切実感を持って考え、友達の意見を聞くことで、「しょうがない」という考えを取り入れていきながら、なおしていきたいという目標を持つことができました。

一人一人自分と重ね合わせるポイントは違うけれど、お互いの意見を聞き合っ、友達の意見を取り入れながら考え、価値と向かい合う姿が見られました。



ここがポイント！

- ・ 1時間を通じて主体的に考えるためには、自分の日常や、自分や友達と重ね合わせやすい題材を選ぶことが大切です。
- ・ 主体的に考え、考えを深めていくためには、友達の意見を聞きたいと思う場面設定や、いつでも考えを変えていい環境が大切です。

まとめ

- ・ 対立する意見が生まれる問いを投げかけ、対立した意見を比較しやすいように提示することで、考えが揺れ動き、自分を見つめたり友達の考えを聞いたりする必要感が生まれ、新たな考えに気づいたり考えが深まったりし、多様な見方の大切さを感じることができました。